ふん着の社会貢献 第43回

先輩が率先、新人も参加

名物行事の地域清掃

㈱高尾

遊技機メーカー、高尾については、いまさら説明するまでもありません。終戦直後の昭和25年、内ヶ島正一氏が、名古屋で設立した高尾製作所が発祥です。パチンコといえば名古屋、その礎を築いた業界の先駆者といってもいいでしょう。内ヶ島氏はその後20年間にわたり、日工組の副理事長、理事長を務め、業界の発展に尽くしました。業界にとっては、名門企業と呼ばれるにふさわしい歴史と伝統を誇る企業でもあります。

そんな高尾が、最近面白いことを始めました。名古屋市中川区の本社・研究開発本部で、毎月の第一土曜日朝9時15分から30分間、周辺の道路や空き地の清掃を行います。社員の参加は自由ですが、役員以外は部長さんから若手社員まで総出で行います。はじめは参加者はそれほどでもなかったのですが、電話応対などの仕事から手が離せない女子社員を除き、今では男子社員のほとんどが自主的に参加します。

先輩、上司が率先して行くので、入社したての若手社員も自然と参加するようになりました。やってみると、どんどん面白くなり、「あそこもやろう」「こっちのほうがゴミはある」と、活動はより活発に。そんな高尾社員の姿を見て、通りかかりの地域の人から「ご苦労さんです」「頑張ってますなあ」などと励ましの声もかかるようになりました。こうなると、やっているほうも面白くなり熱がこもります。会社へ「こんな掃除用具があったらいいのに」「スコップ買ってください」などという要望がどんどん寄せられるようになりました。日頃、あまり交流のない地域の人へのささやかな社会貢献を、という動機から始まったこの清掃活動、今では会社周辺の地域では名物行事となっています。

管理職も率先して参加する清掃活動

子供たちを野球に招待

名古屋といえば中日ドラゴンズ。高木守道監督は、現役時代も含めて、名古屋市民の英雄です。その高木監督が、身障者や貧しい家庭の少年少女を中日ドラゴンズの試合に招いて、野球観戦などの楽しい1日を過ごしてもらう「モリミチシート」という活動を行なっていることは、名古屋にいる方以外は知る人ぞ知る、ではないかと思います。しかし、名古屋では有名な話です。高木監督とその友人らで作った「モリミチ基金」というNPOが毎年主催しています。毎回、3000人から4000人の応募者を招待する大規模なもので、日頃、恵まれない子どもたちにとっては、大きな楽しみの一つとなっています。この活動に、実は高尾も協賛しています。その日は、高尾のロゴマーク入りTシャツを着た少年たちがスタンドを埋めます。

（上）高尾のTシャツ姿の招待客
（下）ボランティアでも明るく頑張る高尾社員

モノづくりのメーカーらしく、高尾の社会貢献は決して派手なものではありませんが、地域社会の人々との心の交流を広げています。そんな高尾の社会貢献活動も、時代の流れの中で、変化の兆しも現れています。一昨年の東日本大震災に際しては、日遊協の呼びかけに応えて、高尾からも若手社員が被災地救援ボランティアに参加しました。日頃、パソコン相手に遊技機開発に専念している彼らにとっては、思ってもみない過酷な作業でした。だが、誰一人弱音を吐くものはいませんでした。むしろ、持ち前の明るさを発揮して、被災地の人たちから、感謝の言葉を浴びました。高尾社員の社会貢献活動が地域の枠を超え、大きな広がりを獲得した瞬間でした。若い社員のこの体験が、今後の社会貢献活動にどういかされるか注目していきたいと思います。